学校番号	１０７

令和８年度　音楽科

教科	音楽	科目	演奏研究（ピアノ）	単位数	１単位	年次	１年次
使用教科書	高校生の音楽１（教育芸術社）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・この授業では、ピアノ専攻の生徒が集まって授業を行います。
・教科書と筆記用具、プリントを綴じるためのファイル、を必ず持参してください。必要に応じ、五線紙を持参してもらうこともあります。
・この授業では、専攻実技や音楽理論、音楽史などで学んだことを基礎として、将来にプロの音楽家として必要とされる総合的な力を身につけます。
　総合的な力とは（１年次）
　①　楽曲を分析し、調べたことを言葉によりまとめる力
　　＝プログラムノートや楽曲についての分析レポートを自分で作成できる力
　②　演奏会を企画・実演する力＝舞台マナーの向上、演奏会の成り立ちを学ぶ、自主演奏会の企画・運営・実践、演奏発表の振り返りと分析を行う力
③　楽器の特徴を踏まえた演奏解釈、アンサンブル能力を身につける

2　学習の到達目標

音楽作品の演奏や鑑賞の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次の通り育成することをめざす。
【知識及び技能】演奏における客観性と多様性について理解を深めるとともに、理解したことを生かした演奏をするために必要な技能を身に付けるようにする。
【思考力・判断力・表現力等】音楽の様式をふまえた演奏に関する思考力、判断力、表現力等を育成する。
【学びに向かう力、人間性等】音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・演奏や鑑賞の学習を通して、楽譜に基づいて演奏者がどのような解釈をしたか、時代や様式及び演奏形態などに即した表現方法や解釈があることについて理解をしている。【知識】 ・自らの演奏を振り返りながら、また楽曲がうまれた時代や地域、楽器等によって特徴が異なる音楽の様式を演奏者によってどのように表現しているかなど、客観性と多様性を踏まえ、自らも器楽で表している。【技能】	・時代や地域、楽器等による表現上の特徴や個々の作曲家の表現上の特徴などを踏まえ、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。また専門実技で培った知識・技能を生かし、自分や他者の演奏が音楽の様式を踏まえた演奏となっているかどうかについて思考、判断し、表現する一連の過程を位置づけながら、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。	時代や地域、楽器、作曲家等の表現上の特徴を踏まえて作品を解釈したり、様式等に即した演奏を追求することに関心をもち、音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度で主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	いろいろな表現の可能性をを探る①	・ピアノの歴史・特徴を知る(レポート発表) ・いろいろな表現に繋がる基礎力とは(春休みのスケール・アルペジオ課題から) ・ピアノ伴奏, アンサンブル創作・発表 (唱歌、日本歌曲を中心に、分析・表現) ・作品研究(演奏作品に関するレポート) ・ステージマナー	a:時代によって変遷するピアノの構造や特徴、表現するうえで必要となる基礎となる技術、楽譜を読み解くうえで必要な分析力、時代や様式及び演奏形態などに即した表現方法や解釈、旋律と和声との関係、ステージマナーについて、理解をしている。　【知識】 自身の演奏する楽器や、作品を演奏するためにふさわしい奏法、表現方法、身体の使い方、また、ステージ上における所作などの技能を身に付けたうえで、器楽で表している。　【技能】 b:専門実技で培った知識・技能を生かしながら、自分や他者、グループの演奏が音楽の様式や楽器の特徴、時代背景等をふまえた演奏となっているかどうかについて分析し、思考・判断し、ステージで表現する一連の過程と関連付けながら、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 c:楽器や作品の時代背景や特徴、楽譜から作品を分析・解釈し演奏することに関心をもち、音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度で主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート レポート	ワークシート レポート 演奏聴取 発表	ワークシート 発表 振り返りシート

後期	いろいろな表現の可能性を知る②	・ピアノアンサンブル ・演奏発表（演奏会運営，作品に関する調べ学習・楽曲分析レポート、プログラムノート作成等）	a:楽譜を読み解くうえで必要な分析力、時代や様式、及びアンサンブル作品における表現方法や解釈、奏法や呼吸法などについて理解している。　【知識】 作品を演奏するためにふさわしい奏法、表現方法、身体の使い方、アンサンブルの方法などを身に付け、ステージ上における所作などの技能を身に付けたうえで、器楽で表している。　【技能】 b:専門実技で培った知識・技能を生かしながら、自分やペアとの演奏が音楽の様式や構造、時代背景等をふまえた演奏か、またアンサンブルとしての音楽づくりができているかどうか客観的にとらえ、分析し、思考・判断し、ステージで表現する一連の過程と関連付けながら、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 c:楽器や作品の時代背景や特徴、楽譜から作品を分析・解釈し演奏することや、アンサンブルによる演奏、演奏会運営に関心をもち、音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度で主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 観察 演奏聴取	ワークシート 演奏聴取 発表	ワークシート 発表 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度